



令和7年度 第4回 新栄高等学校学校運営協議会 議事録

開催日：令和8年3月25日（水）15:00～15:55

議 題：令和7年度学校評価報告書についての意見聴取

出席者：学校運営協議会委員5名（欠席2名）

+校長、副校長、教頭、事務長、各グループリーダー4名

○令和7年度学校評価報告書に対する意見聴取

	意見・質問・感想等
委員A	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業改善アンケート結果について、「他の生徒との話し合いや協働活動が役に立ったか」との質問に対して、肯定的な回答の割合が高く、新栄生の学びに対する意識の高さを感じた。</li></ul>
委員B	<ul style="list-style-type: none"><li>・アンケート結果について、今後も比較しながら実施し、授業改善につなげていただきたい。</li><li>・交通マナーの苦情については、どの世代もなくなることはない。今後も生徒と信頼関係を作りながら粘り強く続けていただきたい。</li></ul>
委員A	<ul style="list-style-type: none"><li>・校門前を通る際、教員から生徒に対しての挨拶の声掛けを耳にした。先日の卒業式に参加したが、学校の雰囲気が変わったように感じた。学校内のボランティア参加者から、「校内に入ったことがなかったのが不安があったが、丁寧に活動内容を指示していただき安心した」との声があった。ボランティアが地域とつながる開かれた学校としてのきっかけになった。</li></ul>
委員C	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度から始めた新栄高校と日々輝学園との「高校生会議」は、地域と学校との連携を深めることができた。先日、次年度に向けた引継ぎの打ち合わせを行ったが、雰囲気が大変良くなっているように感じた。高校が違ってもコミュニケーションが良く取れており、大人はなるべく口出しせず会議を行った。今後は生徒会だけでなく有志等に間口を広げるのもよいのではないかと生徒たちに伝えた。</li><li>・在県生徒は、文化の違いや日本語能力の低さのために、コミュニケーションがうまくとれない問題がある。生徒から苦しい思いのSOSを受けることもある。卒業しても、大学入学前の課題に取り組むことができず、連絡を受けることがあった。ただ、助けを求める声を挙げられるのは、まだ良い。自分を守る手段である。</li></ul>
委員D	<ul style="list-style-type: none"><li>・大学でも同様に、交通や喫煙のマナーについて問題がある。注意を素直に受け入れられない学生に対して、キャンパス外の地域住民から「見られている」という意識をどのように持たせられるかが課題である。</li><li>・大学入試受験方法について、近年一般入試が減少し、推薦入試の割合が高くなっている。推薦合格者は、入学後に頑張れない傾向がある。一般入試では、希望通りに合格できないからかもしれないが、一般入試での頑張りは無駄にはならない。</li><li>・学部ごとに受験方法が異なるなどシステムが複雑になっており、特に在県生徒にとってはわかりづらい現状がある。引き続き周知に努めたい。</li></ul>
委員E	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒が施設を利用することで繋がると、気にしてくれるようになった。これまでの「関係ない人だから何をしてもよい」ということがなくなったが、マナー違反の生徒も未だ散見される。今後も引き続き支援していく。</li><li>・ローソン前を斜め横断する問題は、地域住民も問題視し、意識している。</li><li>・吹奏楽部の定期演奏会で演奏を聞いた。少人数ではあったが、良く音が聞こえた。頑張ることが大事であると感じた。</li><li>・新栄高校には、在県入試制度、多文化教育支援、みどり支援学校など、多文化共生を実現する良い環境に恵まれている。今後も積極的に機会創出をしていきたい。</li></ul>